

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第228号

平成19年(2007年)1月刊

1. 理事会および総会

平成18年11月22日(第52回秋期特別総会の前日)にダイワロイネットホテル和歌山にて理事会を、11月23日には同所にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

協議事項としては、総会では、19年度事業計画並びに収支予算、第54回(平成20年度)秋期特別総会世話人および第98回(平成21年度)総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では、第97回(平成20年度)総会宿題報告担当者、平成19年度秋期学術集会シンポジウム演題、病理診断シリーズの講演者、第7回(平成19年度)海外病理学者・研究者の招聘、第6回(平成18年度前期)海外病理学会参加支援者、平成18年度上期新入会員、宿題報告を「日本病理学会賞」とする件、秋期特別総会の「世話人」を「会長」と呼称変更する件をそれぞれ協議して決定した。

2. 学術集会

(1) 第52回(平成18年度)秋期特別総会

和歌山県立医科大学を世話機関として覚道健一、村垣泰光の両世話人のもとで、平成18年11月23日(木)～24日(金)の2日間、ダイワロイネットホテル和歌山にて開催された。特別講演3題、学術研究賞演説(A演説)8題、B演説2題、シンポジウム2件8題、病理診断シリーズ2題、モーニングレクチャア4件、ナイトセッション2件、ワークショップ2件5題、症例から学ぶ鑑別シリーズ1件6題の発表と討論が行われた。「病理医に聞こう! 正しい診断」

の市民公開講座および、会期の前後には技術講習会、IAP病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

(2) 今後の予定されている学術集会は、以下のとおりである。

- 1) 第96回(平成19年度)総会
 世話機関: 大阪大学
 会長: 青笹克之教授
 会期: 平成19年3月13日(火)～15日(木)
 会場: 大阪国際会議場
- 2) 第53回(平成19年度)秋期特別総会
 世話機関: 東京医科大学
 会長: 向井 清教授
 会期: 平成19年12月6日～7日
 会場: 江戸川区民ホール(タワーホール船堀)
- 3) 第97回(平成20年度)総会
 世話機関: 金沢大学
 会長: 中沼安二教授
 会期: 平成20年5月15日～17日
 会場: 石川県立音楽堂他
- 4) 第54回(平成20年度)秋期特別総会
 世話機関: 愛媛大学
 会長: 植田規史教授
 会期および会場は未定
- 5) 第98回(平成21年度)総会
 世話機関: 京都大学
 会長: 真鍋俊明
 会期および会場は未定

病理専門医研修指導医について

既報の標記指導医につきまして、平成18年4月1日付けの指導医証発行を受けられていない病理専門医で、平成19年4月1日付け指導医証の発行をご希望の方は2月末日までに病理学会事務局あてご連絡ください。

TEL: 03-5684-6884

FAX: 03-5684-6936

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

3. 常任理事会報告（理事会・総会報告要旨）

常任理事会より、春期総会以降の会務全般と各委員会活動の主要事項について報告する。

(1) 長村義之理事長

- ① 平成 18 年 10 月 31 日現在の病理学会会員数は、学術評議員 1,602 名、一般会員 2,296 名、名誉会員 229 名、学生会員 3 名の 4,130 名である。そのうち、病理専門医は 1,928 名、口腔病理専門医 100 名である。
- ② 学生・研修医向けのパンフレット「病理医は求められています」を作成し、配布した。
- ③ 学生・研修医向けのセミナーに参加した。その際の経験から、研修医の受け入れについての状況を認定施設に対してアンケート調査し、その結果をホームページに掲載した。
- ④ 医学会の評議員を森前理事長より、長村現理事長に変更した。
- ⑤ 日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会より依頼のあった「卵巣腫瘍取扱い規約改訂」の病理側委員として、坂本穆彦、手島伸一、本山悌一の各会員を推薦した。
- ⑥ 厚生労働省がん対策推進室より、がん拠点病院に関するヒアリングを受け、長村理事長が説明した。
- ⑦ 秋期学術集会への参加単位を 20 単位とした。
- ⑧ 第 100 回英国病理学会に参加し、合同記念シンポジウムを行った。
- ⑨ ドイツ病理学会との交流では、研究者の交換を行っており、現在日本から塩沢英輔会員が渡独している。ドイツでは、日本への留学生を募っているところである。また、学術集会時に合同シンポジウム等を行うことになり、第 96 回総会にはドイツより、Dr. Dietel が特別講演を行う。
- ⑩ 内保連委員を、長村義之理事から根本則道理事、斉藤 澄学術評議員から稲山嘉明学術評議員に交代した。
- ⑪ 日本臨床衛生検査技師会との会合をもち、病理技師の育成について話し合った。PA については話題になったことがないことを確認した。
- ⑫ 病理教材の共有化のためのホームページ作成をおこなない、まもなく病理学会ホームページにリンクすることになった。
- ⑬ 厚生労働省医政局経済課の中谷祐貴子課長補佐を招いて、9 月 8 日に勉強会を行った。次回診療報酬改訂に向けて優先要望事項をまとめ、意見を伺った。
- ⑭ 医学会用語委員会で行っている「日本医学会医学用語辞典 英和 第 3 版」の改訂については、医学会用語委員の坂本理事および用語代委員の森永正二郎

学術評議員が担当する。

- ⑮ 日本医学会より、「日本医学会における今後の検討事項について」のアンケート調査があったので当学会としては「医療関連死における諸問題」と「医療の質と安全について」と回答した。
 - ⑯ 倫理委員会の委員の増員を行った。伊藤雅文、本山悌一、長嶋洋治の各学術評議員である。
 - ⑰ 10 月 18 日に厚生労働省医療課の課長補佐と面談した。当学会からは、長村理事長、根本医療業務委員長、水口病理診断体制専門委員長および、稲山社会保険小委員長が参加した。病理診断を別部門にして欲しいことなどを中心に要望書を提出した。
 - ⑱ 病理医についての広報活動の強化のため、ホームページの有効活用の検討を広報委員会に依頼した。
 - ⑲ 秋期特別総会の世話人を「会長」と呼称変更することが理事会で認められた。
 - ⑳ 病理学会 100 周年記念事業につき、委員会を立ち上げることにについては、常任理事会で検討中である。
 - ㉑ 学術集会時のレクチュア講演をビデオ収録して会員に配布してはどうかとの提案に対しては、常任理事会にて検討する。
- (2) 深山正久副理事長（企画委員会）
- ① 「若手病理医育成のためのワークショップ」を企画委員会、病理専門医制度運営委員会および教育委員会の合同で、8 月 20 日に開催した。「魅力ある病理学を若人にどう伝えるか」をテーマに 5 グループに分かれて討論を行った。その結果は提言にまとめられ、ホームページに掲載されることになっている。
 - ② 「若手医師確保に関する小委員会」を設置することにした（委員長は虎の門病院 大橋健一学術評議員）。
 - ③ 臨床医学と病理学の対話を促進し、病理医の生涯学習に役立てる企画として「診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話」を、平成 19 年 8 月 11 日・12 日に開催することにした。サマーフェスト小委員長を真鍋理事が担当し、将来的には、生涯教育委員会への発展も考えられる。
- (3) 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会・研究推進委員会・編集委員会）
- ① 学術委員会
 - i. 第 97 回総会宿題報告の選考を行い、岩崎 宏(福岡大学)、佐藤昇志(札幌医科大学)、安井 弥(広島大学)の各学術評議員に決定した。
 - ii. 平成 19 年度秋期学術集会のシンポジウムとして「科学論文・公的研究資金申請書の書き方」に決定した。
 - iii. 平成 19 年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「胸腺腫と胸腺癌(向井 清学術評議員)」と

「脳腫瘍：鑑別診断を中心として(廣瀬隆則学術評議員)」に決定した。

- iv. 学術研究賞(A 演説)の募集書類に履歴書を追加することにした。
- v. 宿題報告を顕彰することにし「日本病理学会賞」とすることが、理事会で認められた。
- vi. 病理診断シリーズ講演は、「特定の疾患や臓器における病理診断に関して、それを専門として卓越した経験と見識をもつ本学会員が担当し、担当疾患の病理診断に関して主として解説的に講演する」とした。
- vii. プログラム推進委員会に、病理診断講習会およびIAPセミナーとの調整を依頼した。

② 研究推進委員会

- i. 第4回病理学会カンファレンスを、平成19年7月27日・28日に旭川医大小川勝洋教授を世話人に開催する。テーマは「肝臓疾患の現状と課題(仮題)」である。
- ii. 第7回技術講習会を、平成19年12月5日(秋期特別総会前日)に国立がんセンター東病院落合淳志部長を世話人に開催する。今後講習会を継続するかは検討中である。

③ 編集委員会

- i. Pathology International の2006年の投稿数は270編程度で例年並みである。採択率を現在の40%から50%くらいにすることが望ましい。2005年のインパクトファクターは0.925であった。Blackwell社が既刊分の電子版を作成することになった。「宿題報告」は今後、Pathology International に掲載したい。
- ii. 「診断病理」は年間73編を掲載した。平成19年度からの新編集長を公募により選出する。
- iii. 剖検輯報は、第48輯を作成中である。

(4) 黒田 誠常任理事(病理専門医部会)

① 病理専門医制度運営委員会

- i. 平成19年度病理専門医試験は、平成19年7月28日・29日に東京医科歯科大学を会場に実施することになっている。
- ii. 平成19年度試験からは、出願時(4月末日)に死体解剖資格及び細胞診講習会受講証明書が必ず揃っていることとする。該当の細胞診講習会とは、全臓器を網羅する日本病理学会主催の講習会および臨床細胞学会の講習会のみである。
- iii. 平成19年の細胞診講習会は3月3日・4日に、東京慈恵会医科大学にて実施予定である。
- iv. 本年度より大学病院(分院を含む)も研修施設(認定施設あるいは登録施設)として認定審査を行っ

た。80大学すべて認定施設Aとして認定された。分院については、認定施設および登録施設としての申請通りに認定された。

- v. 第96回総会(大阪)での病理診断講習会は決定済みである。

⑥ 医療業務委員会

- i. 次回診療報酬改訂にむけて、病理診断を独立して第4部の新設を最重要要望項目とする。
- ii. 標榜科については病院機能としての表示を要望していくことが現実的と思われる。厚生労働省への医師届出票に、従事する診療科名項目に今回「病理」が新規に選択肢と記載された。これは病理専門医を専門職として厚生労働省が認めたという点で意義深く標榜科への第一歩となる。

4. 各種委員会の活動状況

春期総会以降の各委員会活動につき報告する。

(1) 広報委員会(坂本穆彦委員長)

委員会は実働委員と理事委員で構成されている。ホームページ作成については、委員だけでなく、外部(プロ)の力を借りてブラッシュアップしてはどうかの意見が出された。内容は、会員向けだけでなく学生・研究者・一般向けのページを作成する必要がある。掲載希望の記事があれば提案してほしい。

物故者の追悼文を日本病理学会会誌でなくホームページに掲載することになっているが、そのページの構成については、次回委員会までに作成することになっている。

(2) 口腔病理専門医制度運営委員会(林 良夫委員長)

- ① 口腔病理専門医試験を7名が受験し、4名が合格した。
- ② 平成19年度の試験実施委員を決定した。
- ③ 口腔病理専門医の広告ができるようにすることについては、進んでいない。

(3) 教育委員会(堤 寛委員長)

- ① 8月20日のワークショップに参加した。
- ② 来夏、ワークショップを開催する方向で検討している。
- ③ 病理画像の共有化ホームページは間もなく、病理学会ホームページに掲載されることになった。
- ④ 研修医・学生対象のレジナビフェアへの参加は、顔の見える病理医のアピールに有効である。

(4) 支部委員会(小川勝洋委員長)

- ① PAに関するアンケート(支部対象)の結果では、導入への賛成は少なく、どちらかといえば反対が多い。
- ② 各支部の業務量調査を現在行っている。現在の認定

施設・登録施設のカテゴリーに入っていない施設についての調査は、各支部で検討する。

5. 平成19年度事業計画並びに収支予算について

社団法人日本病理学会平成19年度事業計画並びに収支予算は、今総会において以下のとおり決定した。

○平成19年度事業計画

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

〔事業の概要〕

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 第96回日本病理学会総会(於大阪・青笹克之会長)
- (2) 第53回日本病理学会秋期特別総会(於東京・向井清会長)

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第4回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 技術講習会
- (5) 各支部における学術・研究集会
- (6) 新規講習会

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行(第96巻第1～2号)
2. 「Pathology International」の発行(Vol. 57 4～12, Vol. 58 1～3)
3. 「診断病理」の発行(第24巻第2～4号, 第25巻第1号)
4. 「日本病理学会会報」の発行(第231～242号)
5. 「病理専門医部会報」の発行(2007年第2～4号, 2008年第1号)

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第48輯(平成17年症例)
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 研修手帳の実施
4. 研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流

(1) 英国病理学会との会員の相互派遣, 学術交流

(2) ドイツ病理学会との学術交流

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学会学術奨励賞の授与
2. 日本病理学会学術研究賞の授与
3. 日本病理学会賞の授与
4. 会員の海外派遣
5. 病理学卒前教育の充実
6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
7. インターネットホームページの充実
8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
9. 病理専門医制度運営, 医療業務, 学術・研究等の各種委員会の開催

○平成19年度収支予算

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位: 円)

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 |
|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| I. 収入の部 | | | |
| 1. 基本財産運用収入 | 1,000 | 1,000 | 0 |
| 2. 会費収入 | 73,430,000 | 73,280,000 | 150,000 |
| 正会員・学術評議員会費 | 31,000,000 | 29,000,000 | 2,000,000 |
| 同 終身会費 | 3,000,000 | 2,000,000 | 1,000,000 |
| 同 一般会員会費 | 27,000,000 | 30,000,000 | △ 3,000,000 |
| 学生会員会費 | 30,000 | 30,000 | 0 |
| 賛助会員会費 | 250,000 | 350,000 | △ 100,000 |
| 機関会員会費 | 450,000 | 500,000 | △ 50,000 |
| 病理専門医部会費 | 11,700,000 | 11,400,000 | 300,000 |
| 3. 事業収入 | 110,500,000 | 105,000,000 | 5,500,000 |
| 学術集会収入 | 70,000,000 | 65,000,000 | 5,000,000 |
| 論文掲載料収入 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| 広告料収入 | 1,000,000 | 1,500,000 | △ 500,000 |
| 刊行物発行収入 | 15,000,000 | 14,000,000 | 1,000,000 |
| 専門医制度収入 | 15,000,000 | 14,000,000 | 1,000,000 |
| 病理専門医部会収入 | 4,000,000 | 4,000,000 | 0 |
| 講習会等収入 | 500,000 | 2,000,000 | △ 1,500,000 |
| 賠償責任保険事務費収入 | 2,000,000 | 1,500,000 | 500,000 |
| 4. 補助金収入 | 11,000,000 | 11,000,000 | 0 |
| 5. 繰入金収入 | 2,500,000 | 1,910,000 | 590,000 |
| 学術医療基金繰入金収入 | 2,500,000 | 1,910,000 | 590,000 |
| 6. 雑収入 | 1,505,000 | 705,000 | 800,000 |
| 受取利息収入 | 5,000 | 5,000 | 0 |
| 雑収入 | 1,500,000 | 700,000 | 800,000 |
| 当期収入合計 (A) | 198,936,000 | 191,896,000 | 7,040,000 |
| 前期繰越収支差額 | 39,758,000 | 40,483,000 | △ 725,000 |
| 収入合計 (B) | 238,694,000 | 232,379,000 | 6,315,000 |

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 |
|---------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| II. 支出の部 | | | |
| 1. 事業支出 | 157,800,000 | 154,450,000 | 3,350,000 |
| 学術集会経費 | 71,800,000 | 66,800,000 | 5,000,000 |
| 学会誌発行経費 | 37,000,000 | 35,000,000 | 2,000,000 |
| 会報発行経費 | 3,500,000 | 3,300,000 | 200,000 |
| 剖検報刊行経費 | 14,000,000 | 17,000,000 | △ 3,000,000 |
| 専門医制度運営経費 | 8,500,000 | 9,300,000 | △ 800,000 |
| 病理専門医協会経費 | 8,000,000 | 10,000,000 | △ 2,000,000 |
| 支部運営経費 | 6,000,000 | 3,350,000 | 2,650,000 |
| 学術奨励等経費 | 4,500,000 | 3,000,000 | 1,500,000 |
| 講習会等経費 | 1,000,000 | 4,200,000 | △ 3,200,000 |
| 各種委員会経費 | 3,500,000 | 2,500,000 | 1,000,000 |
| 2. 管理費 | 32,030,000 | 32,320,000 | △ 290,000 |
| 人件費 | 15,000,000 | 15,700,000 | △ 700,000 |
| 福利厚生費 | 1,500,000 | 1,650,000 | △ 150,000 |
| 交通費 | 500,000 | 700,000 | △ 200,000 |
| 通信運搬費 | 3,000,000 | 2,200,000 | 800,000 |
| 会議費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 |
| 印刷費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 |
| 備品費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 消耗品費 | 400,000 | 300,000 | 100,000 |
| 水道光熱費 | 230,000 | 230,000 | 0 |
| 賃借料 | 2,600,000 | 2,600,000 | 0 |
| 諸会費 | 800,000 | 950,000 | △ 150,000 |
| 補助費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 修繕費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 嘱託費 | 1,500,000 | 1,490,000 | 100,000 |
| 租税公課(消費税等) | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 |
| 雑費 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 3. その他 | 4,300,000 | 3,300,000 | 1,000,000 |
| 退職給与引当預金支出 | 1,600,000 | 1,500,000 | 100,000 |
| 学術医療基金引当預金 繰入支出他 | 2,700,000 | 1,800,000 | 900,000 |
| 4. 予備費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 当期支出合計 (C) | 195,130,000 | 191,070,000 | 4,060,000 |
| 当期収支差額 (A-C) | 3,806,000 | 826,000 | 2,980,000 |
| 次期繰越収支差額 (B-C) | 43,564,000 | 42,309,000 | 1,255,000 |

6. 第 54 回(平成 20 年度)秋期特別総会世話人の選出について

第 54 回(平成 20 年度)秋期特別総会会長は、植田規史教授(愛媛大学)に決定した。

7. 第 98 回(平成 21 年度)総会会長の選出について

第 98 回(平成 21 年度)総会の会長は、真鍋俊明教授(京

都大学)に決定した。

8. 第 97 回(平成 20 年度)総会宿題報告担当者等の決定について

- (1) 平成 20 年度宿題報告担当者は、岩崎 宏(福岡大学)、佐藤昇志(札幌医科大学)、安井 弥(広島大学)の各学術評議員の 3 名に決定した。
- (2) 平成 19 年度秋期学術集会シンポジウムは、「科学論文・公的研究資金申請書の書き方」に決定した。
- (3) 平成 19 年度病理診断シリーズ講演者は、廣瀬隆則(埼玉医科大学)、向井 清(東京医科大学)の各学術評議員の 2 名に決定した。

9. 会員の海外病理学会参加支援等について

今年度事業計画に係る「海外病理学者・研究者の招聘」および「会員の海外病理学会参加支援」の各事業は、以下のとおり決定した。

- (1) 第 7 回(平成 19 年度)海外病理学者・研究者の招聘事業は、第 96 回(平成 19 年度)日本病理学会総会特別講演(ドイツから 1 名:大阪大学森井英一学術評議員担当)、浜名湖国際セミナー(アメリカから 1 名:聖霊浜松病院小林 寛学術評議員担当)の 2 件。
- (2) 第 6 回(平成 18 年度前期)海外病理学会参加支援者は、阿部佳子(順天堂大学)、林大久生(順天堂大学)、前田永子(名古屋第二赤十字病院)、宮国泰香(順天堂大学)、和仁洋治(倉敷中央病院)各会員の 5 名。

10. 平成 18 年度認定施設、登録施設(第 29 回)審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は、128 件、24 件であった。審査の結果、それぞれ 125 件、24 件が承認された。認定(登録)期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日までである。

(1) 認定施設

認定番号 病院名

- | | |
|------|-----------------------|
| 1026 | 市立釧路総合病院 |
| 2037 | 財団法人大原総合病院 |
| 3090 | 大和市立病院 |
| 3132 | 国際医療福祉大学附属三田病院 |
| 3133 | 国際医療福祉大学附属熱海病院 |
| 4058 | 公立学校共済組合東海中央病院 |
| 4079 | 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院 |
| 4080 | 総合病院南生協病院 |
| 5026 | 淀川キリスト教病院 |

5081 大阪府済生会千里病院
 6009 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
 6042 福山市民病院
 6043 広島県厚生農業共同組合連合会尾道総合病院
 7038 独立行政法人国立病院機構九州医療センター

認定番号 病院名

1901 旭川医科大学病院
 1902 北海道大学病院
 1903 札幌医科大学附属病院
 2901 弘前大学医学部附属病院
 2902 秋田大学医学部附属病院
 2903 岩手医科大学附属病院
 2904 東北大学病院
 2905 山形大学医学部附属病院
 2906 福島県立医科大学附属病院
 3901 自治医科大学附属病院
 3902 獨協医科大学病院
 3903 群馬大学医学部附属病院
 3904 筑波大学附属病院
 3905 埼玉医科大学病院
 3906 防衛医科大学校病院
 3907 千葉大学医学部附属病院
 3908 順天堂大学医学部附属順天堂医院
 3909 慶応義塾大学病院
 3910 日本大学医学部附属板橋病院
 3911 日本医科大学付属病院
 3912 東京医科大学病院
 3913 東京慈恵会医科大学附属病院
 3914 東京女子医科大学病院
 3915 東邦大学医療センター大森病院
 3916 昭和大学病院
 3917 東京医科歯科大学医学部附属病院
 3918 東京大学医学部附属病院
 3919 杏林大学医学部付属病院
 3920 帝京大学医学部附属病院
 3921 聖マリアンナ医科大学病院
 3922 北里大学病院
 3923 東海大学医学部付属病院
 3924 横浜市立大附属病院
 4901 浜松医科大学医学部附属病院
 4902 新潟大学医歯学総合病院
 4903 山梨大学医学部附属病院
 4904 信州大学医学部附属病院
 4905 富山大学附属病院
 4906 金沢大学医学部附属病院
 4907 金沢医科大学病院

4908 福井大学医学部附属病院
 4909 名古屋大学医学部附属病院
 4910 名古屋市立大学病院
 4911 愛知医科大学病院
 4912 藤田保健衛生大学病院
 4913 岐阜大学医学部附属病院
 4914 三重大学医学部附属病院
 4915 奈良県立医科大学附属病院
 4916 滋賀医科大学医学部附属病院
 5901 京都大学医学部附属病院
 5902 京都府立医科大学附属病院
 5903 関西医科大学附属滝井病院
 5904 大阪医科大学附属病院
 5905 大阪市立大学医学部附属病院
 5906 大阪大学医学部附属病院
 5907 近畿大学医学部附属病院
 5908 和歌山県立医科大学附属病院
 5909 兵庫医科大学病院
 5910 神戸大学医学部附属病院
 6901 徳島大学医学部歯学部附属病院
 6902 香川大学医学部附属病院
 6903 高知大学医学部附属病院
 6904 愛媛大学医学部附属病院
 6905 岡山大学医学部・歯学部附属病院
 6906 川崎医科大学附属病院
 6907 広島大学病院
 6908 鳥取大学医学部附属病院
 6909 島根大学医学部附属病院
 6910 山口大学医学部附属病院
 7901 産業医科大学病院
 7902 久留米大学病院
 7903 九州大学病院
 7904 福岡大学病院
 7905 佐賀大学医学部附属病院
 7906 熊本大学医学部附属病院
 7907 長崎大学医学部・歯学部附属病院
 7908 大分大学医学部附属病院
 7909 宮崎大学医学部附属病院
 7910 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 7911 琉球大学医学部附属病院

認定番号 病院名

3925 東京医科大学霞ヶ浦病院
 3926 獨協医科大学越谷病院
 3927 埼玉医科大学総合医療センター
 3928 自治医科大学附属大宮医療センター
 3929 帝京大学ちば総合医療センター

| | |
|------|----------------------------|
| 3930 | 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 |
| 3931 | 東京慈恵会医科大学附属柏病院 |
| 3932 | 東邦大学医療センター佐倉病院 |
| 3933 | 日本医科大学千葉北総病院 |
| 3934 | 駿河台日本大学病院 |
| 3935 | 東京慈恵会医科大学附属第三病院 |
| 3936 | 東邦大学医療センター大橋病院 |
| 3937 | 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 |
| 3938 | 東京女子医科大学東医療センター |
| 3939 | 日本医科大学多摩永山病院 |
| 3940 | 日本大学医学部付属練馬光が丘病院 |
| 3941 | 東京医科大学八王子医療センター |
| 3942 | 順天堂大学医学部附属順天堂江東東京高齢者医療センター |
| 3943 | 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 |
| 3944 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 3945 | 横浜市立大学附属市民総合医療センター |
| 3946 | 日本医科大学武蔵小杉病院 |
| 3947 | 北里大学東病院 |
| 3948 | 帝京大学医学部附属溝口病院 |
| 3949 | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 4917 | 順天堂大学医学部附属静岡病院 |
| 5911 | 近畿大学医学部堺病院 |
| 5912 | 近畿大学医学部奈良病院 |
| 6911 | 川崎医科大学附属川崎病院 |
| 7912 | 福岡大学筑紫病院 |

(2) 登録施設

| 登録番号 | 病院名 |
|------|----------------------------|
| 1029 | 医療法人彰和会北海道消化器科病院 |
| 1030 | 北海道社会事業教会小樽病院 |
| 2029 | JA 秋田厚生連秋田組合総合病院 |
| 3080 | 国立療養所多磨全生園 |
| 3111 | (財)ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院 |
| 4091 | 金沢市立病院 |
| 4096 | 公立松任石川中央病院 |
| 4097 | 南砺市民病院 |
| 5081 | 大阪府済生会茨木病院 |
| 5082 | 兵庫県立加古川病院 |
| 6015 | 徳島市民病院 |
| 6034 | 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院 |
| 6051 | 山口県済生会下関総合病院 |
| 6052 | 社会保険下関厚生病院 |
| 7055 | 独立行政法人国立病院機構小倉病院 |
| 7056 | 医療法人社団高邦会高木病院 |
| 7057 | 長崎県済生会病院 |

7058 長崎県立島原病院

登録番号 病院名

| | |
|------|------------------|
| 3901 | 東京大学医科学研究所附属病院 |
| 3902 | 東海大学医学部附属東京病院 |
| 3903 | 東海大学医学部附属八王子病院 |
| 3904 | 東海大学医学部附属大磯病院 |
| 4901 | 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 |
| 6901 | 関西医科大学附属枚方病院 |

11. 常任理事会報告（平成18年10月・11月）

◎第6回（平成18年10月15日（日））

- 10月18日に厚生労働省の医療課長と面談する際、要望書および要望点を提出することにして、社会保険小委員会委員長の稲山委員長が要望点を整理した。
- 国際交流委員会進捗状況（派遣研究員、病理学会への招聘など）について長村理事長より報告があった。昭和大学塩沢英輔会員がドイツへ留学し、ドイツからの日本への留学生はドイツにて選考中である（100万円を補助）。来年のドイツ病理学会へは岡田理事が参加する。また、来春の大阪での日本病理学会では、英国病理学会との合同シンポジウムが開催されることになっている。
- 現在のホームページについて、さらに効果的な活用をするために、広報委員会で検討する必要があるとの意見があった。
- 酢酸ウランの利用と管理については現状通り使用できる旨の解剖学会の資料を確認した。
- 若手医師確保に関する小委員会の委員構成案が深山企画委員長より提出され、次の10名の学術評議員を承認した。
大橋健一（委員長）、長嶋洋治、笹島ゆう子、茅野秀一、北川昌伸、田村浩一、鈴木 貴、鬼島 宏、羽場礼次、谷山清己
8月20日に開催された「若手病理医育成のためのワークショップ」プロダクト（案）が提示され、そのうち「研修医へのアプローチ」「一般臨床医へのアプローチ」が、この小委員会の担当と考えられる。
- 来年度の企画委員会新規事業として、深山企画委員長より、診断病理サマーフェスト小委員会（案）について提案があった。具体的には、来年の8月11日・12日に東大を会場にして、夏の講習会を開催す案が提示された。支部のセミナーとの関連もあるので、支部長にアナウンスして意見を聞くこととした。
- 来年度予算・事業計画（案）について上記新規事業も取り入れて、次回常任理事会で決定し、理事会および

総会に諮ることとした。

8. 2009年度春期学会, 2008年度秋期特別総会 会長, 世話人について各々1件の応募があったので, 応募書類をプログラム推進委員会に諮り, 次回常任理事会を経て, 理事会に諮問することとした。
9. 岡田学術委員長より宿題報告のあり方については10月31日の学術委員会にて, 募集のあり方等検討することになっている旨報告があった。
10. 研修手帳の浸透状況について総会および全国大学病院病理部連絡会議にて, 再度アナウンスをすることとする。
11. 平成19年の細胞診講習会は平成3月4日・4日に慈恵医大にて開催するが, 受講料を33,000円(現行22,000円)とすることとした。また, その際に法的な講習も入れてはどうかとの意見も出た。

◎第7回(平成18年11月8日(水))

1. 10月18日厚生労働省医療課の課長補佐と面談し要望書を提出した。(学会側参加者: 長村理事長 根本理事 水口病理診断体制専門委員会委員長 稲山社会保険小委員会委員長)。
2. 第96回病理学会総会時国際交流についてはドイツより Prof.Dietel が来日し特別講演をする。その費用については, 国際交流委員会の海外交流事業より2,000ユーロと3泊分支出することを国際交流委員会に諮ることとした。
3. 広報委員会へHPの強化の審議を依頼することとした。
4. 日本臨床衛生検査技師会との関係については当面は小委員会を立ち上げず, 黒田病理専門医部会長および根本医療業務委員長が担当の窓口になることとした。
5. 若手医師確保のための小委員会については11月24日(秋期特別総会会期中)に委員会を開催することにしており, ホームページの活用, パンフレットの作成などについて審議する予定であると, 深山企画委員長より報告があった。
6. 来夏予定している「診断病理サマーフェスト」については, 深山企画委員長より, 支部長に開催案を諮っている旨の報告があった。また, 生涯教育委員会(サマーフェスト小委員会+病理診断講習会委員会)設置については, 何年かサマーフェストを開催してから検討することとした。
7. 来年度事業計画案については新規企画として, 「研究会, 講習会等の開催」に「新規講習会」を追加するこ

ととした。

8. 来年度予算案については総会にて提案する際に会員に分かり易いように, 収入および支出を項目分けして, 円グラフで示すこととした。
9. 10月31日開催の学術委員会の報告が岡田委員長よりあった。第97回総会時の宿題報告候補者の選考, および第53回秋期特別総会時の病理診断シリーズとシンポジウムについて, テーマ等を委員会として選出した。11月22日の理事会に諮ることになっている。宿題報告の顕彰について「病理学会賞」としてはどうかの提案を理事会に諮ることとした。病理診断シリーズのあり方等については継続審議していくこととした。
10. 第98回(平成21年度)日本病理学会学術集會会長および第54回(平成20年度)秋期特別学術集會世話人に各1件の応募があり, プログラム推進委員会の持ち回り委員会にて審議した結果両件とも妥当であるとの報告が理事長にあった。これを理事会に提案することとした。
11. 本年度より大学からも認定施設への申請を受け付けていることを確認した。
12. 平成19年度新名誉会員候補者名簿を理事会に諮ることとした。
13. 平成18年度新入会員(上半期)のリストを理事会に諮ることとした。
14. がん対策についての厚生労働省のヒアリング(12月20日)には, 深山副理事長が参加することになった。
15. 「診断病理」の現編集長の任期が来年の3月で満了となるので, 新編集長を公募することとした。

お知らせ

第7回(平成19年度)財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞候補者の募集について

募集期間: 平成19年2月1日から4月末日(必着)

連絡先: (財)材料科学技術振興財団山崎貞一賞 事務局

〒157-0067 世田谷区喜多見1-18-6

TEL 03-3415-2200 FAX 03-3415-5987

E-mail: prize@mst.or.jp

URL: <http://www.mst.or.jp/prize/>